

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

病虫害防除技術情報（第 3 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、発生の確認と防除指導方よろしくお願いいたします。

記

1 情報の内容 サトイモ疫病の発生確認と防除の徹底について

2 発生経過

令和 7 年 8 月 13 日に東予地域においてサトイモ疫病の発生を確認した（昨年は 6 月 12 日初発確認）。本病は、平成 27 年に県内での発病が初めて確認され、平年の初発は 7 月 4 日（H29～R6 の 8 年間の平均）で、本年は平成 29 年以降では最も遅くなっている。

3 当面の防除対策

- (1) 圃場内での発生は周辺箇所から始まることが多いため、こまめに観察し、サトイモの中位葉から下位葉の発病有無を確認する（図 1）。
- (2) 圃場観察を行い、発病茎葉は早急に除去し、圃場外に持ち出し適切に処分する。
- (3) 発病が認められた圃場や隣接圃場では、直ちにオロンデイスウルトラ SC やダイナモ顆粒水和剤などの治療効果のある薬剤（表）を散布するとともに、ランマンフロアブルやジマンダイセン水和剤などにより定期的な予防散布も実施する。なお、サトイモの茎葉は水をはじきやすく薬剤が付着しにくいので、展着剤を必ず加用する。
- (4) 治療効果のある薬剤を散布した後は、病斑の変化をよく観察し（図 2）、追加の防除の有無を判断する。
- (5) 台風や降雨が続く場合には、急速に蔓延する場合があるので注意する。



図 1 葉（左）及び茎（右）における病斑

表 サトイモ疫病に対して使用できる殺菌剤

農薬名	FRAC コード	希釈倍数 (倍)	使用時期	本剤の 使用回数	期待できる 防除効果
ジーファイン水和剤	NC+M1	1,000	収穫前日まで	－	予防効果
ペンコゼブ水和剤	M3	500	収穫7日前まで	2回以内	予防効果
ジマンダイセン水和剤					
ランマンフロアブル	21	2,000	収穫前日まで	2回以内	予防効果
アミスター20フロアブル	11	2,000	収穫14日前まで	3回以内	予防とある程度 の治療効果
ダイナモ顆粒水和剤	21+27	2,000	収穫21日前まで	3回以内	予防と治療効果
ピシロックフロアブル	U17	1,000	収穫前日まで	3回以内	予防と治療効果
カンパネラ水和剤	40+M3	1,000	収穫7日前まで	2回以内	予防と治療効果
ベネセット水和剤					
オロンディスウルトラSC	49+40	2,000	収穫7日前まで	2回以内	予防と治療効果

※ペンコゼブ水和剤、ジマンダイセン水和剤、カンパネラ水和剤、ベネセット水和剤は同一成分（マンゼブ）を含み、また、カンパネラ水和剤、ベネセット水和剤は同一成分（マンゼブ＋ベンチアバリカルブイソプロピル）であるため総使用回数に注意する。

※令和7年度愛媛県農作物病害虫等防除指針より抜粋



＜薬剤散布前の病斑＞

病斑の輪郭がぼやけている
白色部分は遊走子の塊



＜治癒した病斑＞

病斑の輪郭が明確に見える
遊走子の塊が消えている



＜治癒していない病斑＞

病斑の一部がぼやけている
(○部分)

図2 治療効果のある薬剤散布後の病斑治癒